

月影



第 4 1 号

ほとけ ところ
佛の心は
おや ころ
親の心



共に喜び、
共に悲しみ。

何度間違っても、
見放さず。

静かに照らす
月の光のように。

そっと私を見守っている。

佛心と親心。
共に大きく
深い慈悲。

お経の話

何が書いてあるの？

浄土宗西山勤行式（赤本）解説

四弘誓願

しゅじょうむへんせいがんど
衆生無辺誓願度

ほんのうむへんせいがんだん
煩惱無辺誓願断

ほうもんむじんせいがんち
法門無尽誓願知

むじょうぼだいせいがんしやう
無上菩提誓願証

じたほうかいどうりやく
自他法界同利益

ぐしやうごくらくじやうぶつどう
共生極樂成佛道

訳）限らないすべての人々を、さとりの境地に至ら

せたいと願います。

日々限りなくおこる煩惱を、誓って断ちたいと願います。

数限りないみ仏の教えを、誓って学びたいと願います。

この上ないみ仏の教えを、誓って体得したいと願います。

お念仏の功德により、私も他の人々も共に極樂に往生してさとりの道を成就いたしましょう。

四弘誓願とは、四つの広く大きい誓願という意味です。

一つ目は、第一句。すべての生物は、皆仏となる性質をもっているのだから、導き、さとりの彼岸に到達させたい、という誓願。

二つ目は、第二句。すべての生物のもつ、尽きることはない様々な迷い、悩み、煩惱を断ち切るという誓願。

三つ目は、第三句。すべての生物を救う為、数え切れないみ仏の教えを知り尽くす誓願。

四つ目は、第四句。さとりの道が、どんなに遠く限りなく辛いものであっても、必ず悟ってみせるという誓願。

第五・六句は、この四つの誓願と、さらにお念仏を称えることによつて得られる功德を広く回向し、自分も他人も共に功德利益を得て、さとりの仏道を成し遂げよう、という意味です。特に第六句の「共生」という言葉、「共に生きる」という精神は、仏教が大切にしている教えの特徴があらわれています。

仏事と作法

ほんぞん
ご本尊

ご本尊とは、信仰の対象としての中心となる仏さまのことで、宗派によってご本尊とする仏さまも違います。

浄土宗（各派）：阿弥陀如来。
曹洞宗：釈迦牟尼仏。

臨済宗（各派） 釈迦牟尼仏。
天台宗：一つの仏様をもつ

て、本尊を定めることはしていない。各寺院で色々な仏さまが本尊とさされている。

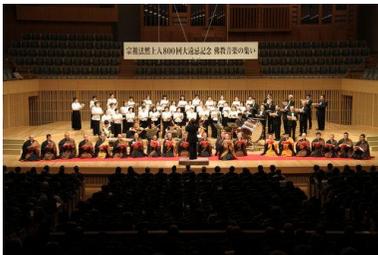
真言宗…大日如来。

日蓮宗…釈迦牟尼仏。大曼荼羅（だいまんだら）。

佛教音楽の集い

十月四日。法然上人八百回大遠忌を記念して、京都コンサートホールで、「佛教音楽の集い」が行われ、私も龍笛で参加致しました。

声明と雅楽。佛賛歌。また、琴や笛、管弦打楽器が奏でる演奏に乗せ、混成四重合唱と僧侶による、法然上人の遺訓「一枚起請文」を歌い読みあげる楽曲などが披露され、檀信徒千四百人の方が静かに聴き入ってくださいました。



ごうたんえ 降誕会

毎年、十一月九日は、本山永観堂において、西山上人の誕生を祝う法要、降誕会（ごうたんえ）が厳修されます。

僧侶の読経の他、永観堂幼稚園児が献灯献花、佛賛歌を歌い、読経後、檀信徒ご先祖様の水塔婆回向があります。

全国から参詣された多くの檀信徒の皆様が見守る中、厳かに法要が執り行われ、西山上人の御遺徳を偲びました。



お十夜説教

じゅうや

十一月十七日。今熊野にあるお寺、正法寺のお十夜法要の法話に招かれ、お話しをさせて頂きました。

正法寺は当寺と同じ法類寺院で、先々代織田住職は、もともとおとなりの智源寺の住職をされておられ、当寺とも関係の深いお寺です。

お知らせ

本堂東側にある外トイレですが、老朽化の為、このたび改修工事をする事になりました。

十二月下旬に完成する予定です。工事中はご迷惑をおかけしますが、よろしくお願い致します。

雑記抄

くまっすぐ歩く

一面真っ白な雪原を歩いた時、自分ではまっすぐに歩いたつもりでも、ふり返って雪についた自分の足跡を見てみると、曲がっていることが多いそうです。

どうすれば、まっすぐ歩くことができるのでしょうか。それは、時々ふり返って、足跡が曲がっていないかを確かめながら歩くそうです。

私たちの人生も同じように、正しく生きていくためには、人生の節目節目でふり返り、これまで生きてきた自分の足跡が曲がっていないかを確かめる必要があります。今年、五十年に一度の大法要である法然上人の八百回大遠忌が厳修されました。

我が宗派にとって、この五十年をふり返る大きな節目の法要として、法然上人の教えを正しく受け取っているだろうか、正しく伝えていいるだろうかと、もう一度再確認した大切な年となりました。

そして、来年は五十年後の八百五十回大遠忌に向けて、第一步を歩み出す新たな年です。

五十年先、次の世代の子たちが、お寺のことや各家の仏事のことを受け継いでいくれるために、今、仏教のことを正しく伝えていくことが大切だと感じます。

平成二十三年十二月一五日発行

浄土宗西山禅林寺派

常林院